

# エーデルソン先生を偲んで

通信総合研究所 理事長 飯田尚志

2002年1月3日にジョージワシントン大学ペルトン先生 (Dr. Joseph N. Pelton) より同大学応用宇宙研究所所長のエーデルソン先生 (Dr. Burton I. Edelson) が、重い心臓発作に襲われ、ニューヨークの病院に入院中であるとの e-mail を受け取った。ただただ回復を祈るのみであったが、去る1月6日に亡くなられた。75歳であった。1月11日に葬儀が行われ、アーリントン国立墓地に埋葬されたとのことである。

先生には、衛星通信システム R&D について広い見地からのご教示を頂いており、また、毎年ハワイで開催されている JUSTSAP (Japan-U.S. Science, Technology and Space Applications Program) において米国側の推進者として活躍され、特に昨年秋にハワイ・オアフ島で開催された同会議では非常にお元気であられたとのことであったので、先生を知る我が国関係者の驚きと悲しみには大きなものがある。

先生は、米海軍の出身で、宇宙開発には初期から携わり、COMSAT 研究所所長、NASA 副長官を経てジョージワシントン大学教授・応用宇宙研究所所長を歴任された。私が始めて先生のお名前に接したのは、1980年代半ばに静止プラットフォームの研究をしていたときに、先生の”アンテナファーム”の論文<sup>(1)</sup>を知ったときであった。その後、米日間の宇宙関係者のいっそうの親密化を図るため、先生から JUSTSAP の前身である日米宇宙協力プロジェクト JUCS (Japan-U.S. Cooperation in Space Project) が提唱され、自ら同プロジェクトの幹事を引き受けられた。1990年にハワイ大学のジェファーソンホールで最初の会合が開催された。JUCS では通信衛星ワーキンググループが設けられ、先生と私が共同議長を務めることになった。その当時から先生は超高速衛星通信を用いてスーパーコンピュータ同士を接続する実験を提案しておられた。この提案はやがて米国の情報スーパーハイウェイ構想の一環とも位置づけられるものとなり、日米高速衛星通信実験に発展し、さらに我が国のギガビット衛星構想につながっていく<sup>(2)</sup>。

先生はまた、地球環境保護のために大切な地球の降雨分布を世界的に測定するための熱帯降雨観測衛星 (TRMM) プロジェクトのスタートについて、米国側のまとめ役として、衛星は米国担当、搭載降雨レーダのミッション機器と打上げは我が国担当という国際共同プロジェクトを推進し、同衛星プロジェクトの成功に大いに貢献された。

さらに、先生は NASA と NSF の資金に基づく JTEC (Japanese Technology Evaluation Center) による調査団長として専門家とともに 1992年に我が国の関係機関、会社を訪問し、レポートが提出されている<sup>(3)</sup>。通信総合研究所としては 1993年から5年間にわたり先生に顧問になって頂き研究に対するアドバイスを頂いた。1999年6月には、我が国の宇宙プログラムへの貢献により郵政大臣表彰を受けられている。また、本誌にも気軽にコメント<sup>(4)</sup>を寄せて下さった。

先生は会話の中においてもユーモアを忘れず和やかな雰囲気の中で一緒に仕事をさせて頂いた。1993年11月にハワイ・マウイ島において JUCS 会合が開催され、ワーキンググループの報告を先生が中心となってまとめていたとき、話の発端は忘れたが、若いとき博士論文の審査会に

において緊張のあまりチョコレートの箱をひっくり返し大変な思いをしたなどの逸話も気さくに話してください、リラックスした雰囲気になったことを覚えている。また、1997年にAIAAの通信衛星システム国際会議(ICSSC)が横浜で開催された際、ご夫妻で参加して下さったが、Accompany Programとして東京湾クルーズが行われた。あいにくこの日は天候が悪く、船は相当揺れたようである。このことを先生に申し上げますと、私は海軍出身だ。このくらいの波浪は何でもないとおっしゃった。さすがだと思つると同時に安堵したものである。

その後、先生から個人的にお世話になったことといえば、AIAAのAssociate Fellow、IEEEのSenior MemberおよびFellowの評価者(Reference)になって頂いたことである。特に、IEEE Senior Memberの評価者になって下さったとき、十分Fellowの資格もあるよと励まして下さった。また、ワシントン、DCを尋ねた際には、Cosmos Clubというところで、夕食に招いて下さった。ここには、米国のノーベル賞受賞者の写真がズラーっと並んだコーナーがあり、米国の実力が身に染みて納得できたものである。

つつい私との関りを書き過ぎたが、先生と親交の厚い方は日本にも多い。皆様とともに謹んで先生のご冥福をお祈りします。

#### 文献

- (1) B.I.Edelson and W.Morgan, "Orbital Antenna Farm", *Astronautics and Aeronautics*, pp. 20-27, September 1977.
- (2) 飯田尚志, 門脇直人: "ギガビット衛星: その夜明けと活動", *Space Japan Review*, No.1, pp.10-15, Feb. 1998.
- (3) "NASA/NSF Panel Report on Satellite Communications Systems & Technology", July 1993.
- (4) B.I.Edelson: "Commentary: 日本は最も重要なパートナー 衛星通信開発の導き手として", *Space Japan Review*, No.1, p.4, Feb. 1998.



Dr. Burton I. Edelson

#### 略歴

1947年: 米海軍アカデミー卒業  
1960年: イェール大学より博士号取得(冶金学)  
1960年: 米海軍研究所研究士官  
1968年: COMSAT研究所(所長も歴任)  
1982年: 米航空宇宙局(NASA)副長官(宇宙科学及び応用担当)  
1988年: 米ジョージ・ワシントン大学教授, 同応用宇宙研究所長  
2002年1月6日: 死去(75歳)

#### 受賞等

Navy Legion of Merit, NASA Exceptional Service Medal 及び Yale University Wibur Cross Medal 受賞, 1998年6月, 我が国の宇宙プログラムに関する貢献により郵政大臣表彰, Senior Fellow of AIAA, Life Fellow of IEEE.



ワシントン, D.C.の Cosmos Club において (1999 年 4 月)  
(左より N.Helm, 門脇直人, J.N.Pelton, B.I.Edelson, R.P.DePaula, 飯田尚志 (敬称略))



ハワイ・マウイ島での JUCS 会合衛星通信ワーキンググループ出席者 (1993 年 11 月)  
(左より J.Crisafulli, 川船武則, M.Borota, 飯田尚志, K.M.Price, B.I.Edelson, D.J.Curtin, A.U.Mac  
Rae, L.A.Bergman, C.E.Mahle (敬称略))